

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270400912		
法人名	有限会社サクララン		
事業所名	ひよりの里		
所在地	千葉県若葉区小倉町875-9		
自己評価作成日	令和4年3月14日	評価結果市町村受理日	令和4年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和4年4月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居様と一日一回はコミュニケーションを取り、笑顔になる時間をつくる。身体機能の低下を遅くする為、毎日ラジオ体操やレクリエーションを行う。生活の中で一番の楽しみである食事をバリエーション豊かに提供している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの名称は、利用者にとって、陽がポカポカとあたる温かい場所でありたいとの思いが込められたもので、ホームの理念「ご利用者様の健康と安全に配慮し、自分の感情が豊かに出せる、その人らしい暮らしを支援します。」に展開されている。職員は、安心・安全・笑顔を心がけ、利用者とのコミュニケーションで利用者の思いをくみ取り、利用者が自分の思いをストレートに出せる環境づくりに努めている。利用者の病状や体調に変化があった際は、主治医の指示を受けて迅速な対応ができる体制で、治療に対する家族の考え方は、ホームが直接主治医に伝えることとしており、利用者や家族の安心につなげている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のユニット会議で理念を共有している。意思決定はご本人の気持ちを優先している。	ホームの理念は、職員の写真と一緒に掲示されており、利用者家族が来訪した際に見ることができるようにしている。また、月1回開催のユニット会議で、進行役の職員が理念を読み上げ、周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響もあり、外部の受け入れが出来ない状況にある。野菜収穫時期には近所の方が野菜を届けて下さる。	ホームは地域の自治会に加入しており、コロナ禍前は利用者が老人会に参加することもあった。また、地域の和太鼓の演奏や歌、踊り、傾聴ボランティアの訪問もあったが、現在はすべて中断している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から認知症高齢者の介護について質問を受けた時は丁寧に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍もあり、開催していない。リモートまでして行う必要性を今の所感じない。	運営推進会議はコロナ禍のため、今年度は開催していない。	運営推進会議でメンバーにホームの状況を報告し、意見をもらうことは重要と思われる。書面の開催も認められており、事前に議題を出して意見をもらい、検討してフィードバックする方法もよいと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設代表者が、都度連絡を取り情報を得たりしている。	行政とのやり取りは、法人の代表者が必要に応じて連絡を取り合っている。コロナ禍の現在は、コロナ予防対策も含め、メールでやり取りができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修は受けられていないが、ユニット会議時、入居者支援についての話をする時身体拘束をしない事を念頭に置いて話し合っている。	ホームでは利用者の身体拘束をしないケアを実践するために、身体拘束禁止規定の具体的な行為を理解するようにし、利用者の動きを常に観察するように努めている。日々の支援の中で不適切事例があった場合は、ユニット会議で取り上げ、資料の提供や指導をするようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	痣チェック表を作り、発見時間・あざの場所・大きさ・色を共有し、何故出来たのか毎月の会議で話し合っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニットリーダーは研修を受けており、現在も後見人制度を受けている入居者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を読み合わせ、都度質問に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の体調変化時等にはご家族に報告し、都度意見を聞く機会を設けている。入居者の意見は、日常生活の会話で汲み取り、支援について話し合う場で共有している。	利用者の意見や要望は、日常生活の会話や入浴時などで一対一になった時に聞き取っている。また、家族からは、面会時に管理者が必ず声かけをし、話を聞く機会を作っている。職員も利用者の様子を伝え、会話をするように心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議で業務内容や支援について提案や意見の話し合いをし、3ヶ月に一度のスタッフ会議(社員)では代表者も参加し、運営等についての説明等も行っている。	職員からの意見や提案は、ユニット会議や法人代表者が参加するスタッフ会議で聞き取るようにしているほか、管理者が日々の支援の中で聞くようにしている。出された意見・提案から夜勤手当の引き上げにもつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当の支給や有給休暇の消化率を上げる等、働きやすい環境作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、外部研修の参加は控えているが、職員の力量や必要な研修には参加させたいと思っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は多様種の高齢者施設の代表者と情報交換を常に行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談で情報整理し面接に臨んでいる。面接では、本人が話しやすい雰囲気づくりを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談等、話を聞く時間を十分に取れるようにし、入居してから分からない事等に丁寧に説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の意向に耳を傾け、他のサービスが妥当と思われる時はその旨を説明し紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の性格に合わせて寄り添い、ご本人が出来る事は手伝って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時にご家族の話に耳を傾け、支援についても必要に応じて相談している。サービス利用で本人と家族の関係がより良くなるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は、家族の同意があれば知人や友人と自由に来れる。	利用者の馴染みの人や場所に関する情報は、入居前に家族や居宅のケアマネジャーから生活歴として収集している。コロナ禍前は、利用者の友人・知人の来訪がある時は、居室に案内してお茶を出すなどしていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席を工夫したり、レクリエーションを通じて関わりが持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りまでしているのので、その後のご家族との関係性にまでは至っていないが、ご家族からの手続きの依頼などは引き受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で入居者の思いを聞き、ユニット会議で共有し、出来るだけ意向に沿えるように検討している。	職員は、利用者一人ひとりに合わせた声かけやコミュニケーションで、思いを把握するようにしている。意思表示が難しい利用者に対しても、表情や仕草を観察することで気持ちをくみ取るようにしている。把握した情報は職員間で話し合い、思いを実現できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や入居者の以前の担当ケアマネジャーから情報を集めて生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務年数が長いスタッフが揃っている為、一人一人の変化を把握しやすい。入居者の個々の記録・往診ノート・スタッフ連絡ノートを利用しながら把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なアセスメントを通じて必要な関係者やユニット会議により現状にあった介護計画の作成とモニタリングによる計画の見直しを行っている。ユニットの年間目標を決め、それに沿った行動もしている。	入居時に、利用者が望む暮らしの課題を整理して介護計画を作成し、半年に1回見直しをしている。また、毎月開催のユニット会議で、状態に変化がある利用者に対して職員間で話し合い、その都度支援内容の検討をおこなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌やケース記録の記入により、職員間の情報共有をして、その内容をユニット会議で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医でない病院受診に際しては家族の意向を尊重して家族が付き添えない場合は代行している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の行事参加やボランティアにも来ていただけない状況にあり、出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、どの方にも往診契約を結んでいただいている。主治医に24時間連絡が取れ何時でも指示がもらえる。	入居の条件として、利用者・家族にホームの協力病院との往診契約締結を説明し、同意を得ている。各ユニット毎に月2回の協力医の往診、週1回の歯科と看護師の訪問があり、利用者の健康管理をしている。耳鼻科などの専門医の受診は家族対応だが、ホームが送迎支援をすることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の看護ステーションの看護師にその間の気付きや身体状態を報告し、指示を受けたり処置等していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が早期に退院してホームの生活に戻れるように、入院先に意向を伝えている。入院時適時訪問し、ご本人の状態把握を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にターミナルケアについて施設の方針を家族に説明し、必要に応じて家族と主治医を交えて話し合いを行っている。その際、本人や家族の意向を尊重した対応が出来るように心掛けている。	ホームは「ひよりの里看取りケアの方針」に基づき、契約時に利用者・家族にホームとしての終末期の対応を説明し、同意を得ている。利用者が終末期に入った際は、家族と主治医、ホームで話し合う場を設け、利用者や家族の希望を最優先した支援ができるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今はできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回は避難訓練を予定したいが、本年度は一回しかしていない。日常の業務の中で毎日コンセントの埃や避難経路確保点検、消火器の位置、非常口の開閉確認を行っている。	コロナ禍前は、火災と地震を想定した訓練を年2回実施していた。今年度は、地震を想定した避難訓練で利用者も参加し、避難場所への誘導訓練をおこなった。災害用品として防災頭巾やブランケットを用意しており、非常用食料については、法人の備蓄品を使うことにしている。	昨年度の目標達成計画の「地域避難場所として施設を開放する。」はコロナ禍により達成されていない。今後の取り組みが期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の性格をふまえて、本人に即した声かけや対応をするように心掛けている。	利用者のプライバシー確保のため、職員は言葉のかけ方、言葉の選び方、声量に注意を払うよう心がけている。また、呼びかけも基本は名字でさん付けとし、職員と同じ苗字の場合は、利用者・家族の了解を得たうえで、名前を呼ぶようにするなど細やかな配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活のペースは本人本位でしていただいている。無理強いしないよにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り入居者の個々のペースに合わせて生活していただけるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の整容と身だしなみに気を配り、定期的にヘアカットをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部の栄養士が作成した献立の時もあれば、スタッフが考える家庭料理の時もあり、幅広いメニューを提供している。今は一緒に食事は取れないが、食器拭きをお願いしている。	ホームでは温かい食事は温かく出すことを大切にしている。また、行事食の提供や献立の工夫など、利用者が食事を楽しめるよう取り組んでいる。利用者は食器やテーブル拭き、下膳などに参加している。コロナ禍前は、ファミリーレストランや回転ずしなど外食にも出かけ、利用者は好きなものを食べる機会を持っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員の水分摂取量を記録し一日の摂取量を把握している。必要に応じて食欲低下の方には食事摂取量を記録し、医師や看護師に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きやうがいの支援をしている。入れ歯の方については、每晚入れ歯を外して洗浄剤に浸けている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員排尿・排便チェックをつけている。必要に応じて職員による声かけ・誘導をし、排泄の失敗が減るように支援している。	ホームは利用者の身体的機能、理解力を考慮しながらトイレでの排泄を基本とし、利用者一人ひとりに合った支援に努めている。排泄表を活用し、定期的な声かけでトイレに誘導している。重度化した利用者でも、座位が取れる場合は、できる限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操を行い、バランスの良い食事や水分摂取量の把握。必要に応じて下剤の調整。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の性格を理解した上で、入浴の声かけやタイミングを計っている。冬季はご当地温泉入浴剤や香りを楽しむ入浴剤を使用している。	ホームでは、毎日入浴の準備をしている。利用者が入浴を楽しめるよう、季節の菖蒲湯やゆず湯などの他入浴剤も提供している。職員とゆっくりおしゃべりを楽しむ人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣やその時の状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月のユニット会議で入居者の既往歴や服用薬の効能を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に出来る家事をする事で自信を持てるような支援を心掛けている。時代劇が好きな方がいらっしやるのでDVD鑑賞をしていただいている。年に数回は施設全体のレクリエーションをしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は順番で散歩に出掛けている。ご家族と行かれる方もいる。	天候が良ければ、車いす利用者も含めて近所の散歩コースに出かけている。また、家族の協力で行きつけの美容院に行く利用者がいる。コロナ禍前は、季節のお花見ドライブや外食にも出かけていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今は認知・身体機能の低下等で出来ていない。本人が希望しない方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方には出来るだけかけるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分は毎日清掃し清潔に保つよう心掛けている。入居者の生活動線には物などを置かず、空調の風が直接当たらないように、工夫している。	利用者が一日の大半を過ごすリビングは、明るく空調管理を適切におこない、居心地のよい場所になるよう心がけている。また、季節を感じられる飾り付けや、その時期にあったおやつを提供するなどしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が過ごせる場所が居室かリビングになっているが、共有空間で独りになれる場所がない。座席は基本決まっているが、気の合った方達が過ごせるように気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の家具や備品等使用していただいている。TVやぬいぐるみ等も持ち込み本人が居心地やすい空間を作っている。	ホームでは、利用者が自宅で使用していた愛着がある物を持ってきてもらうよう話しており、テレビやぬいぐるみ、仏壇などが持ち込まれている。家具などは、ホームが利用者の動線を考えて、配置するようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりを設置してバリアフリーを実現している。床材はクッション性のある物を使用している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと